

中国短期大学総合生活学科の学生の 訪問介護員に関する意識調査

A Study of Junior College Student Attitudes on the Work of Home Helpers

(2004年3月31日受理)

寺山節子
Setsuko Terayama

Key words : 訪問介護員養成, 短期大学生, 介護意識・意欲

要 旨

本稿は、中国短期大学総合生活学科の学生（平成15年度入学生90名）を対象に、訪問介護員に関するアンケート調査の第1回目の報告である。

本学科に入学し、訪問介護員の資格取得を希望し目指す学生は2級課程36名、その中から引き続き1級課程を目指す学生は13名（迷っている学生は7名はこの中に含まれない）というアンケート結果である。

また、本学科学生がどういう意識や意欲を持って資格取得を目指すのかをアンケート結果より考察した。

I はじめに

少子高齢化が急速に進む中、寝たきりや痴呆の高齢者が増えたにもかかわらず、核家族へと家族形態が変化し、介護を必要とする状況が深刻化してきた。

老老介護の現状、介護を必要とする期間の長期化、これまで、主に介護を強いられてきた女性の社会への進出、そのため介護の担い手の不足、介護負担により家族関係にひびが入り、介護放棄や虐待が起きるなどの理由から、「介護」が国民的課題になってきた。こうした課題達成の一翼を担うのが、訪問介護員である。

この、訪問介護員の養成研修については現在、全国各地の市町村、社会福祉協議会、民間の企業、病院、施設などで行われ、毎年多くの者が資格を取得している。

「新ゴールドプラン」では目標として掲げられた17万人はほぼ達成され、新たに「ゴールドプラン21」により、2004年には35万人の設置が目標として掲げられた。このように急速にマンパワーの確保が求められているが、一方でこの訪問介護員の質が問われている。この訪問介護

員の資格は法律的な意味での資格、つまり国家資格ではない。従って、厚生労働省が定めた一定の時間の研修を受けると誰もが修了証を取得できる。

このような中で、本学でも岡山県の指定を受けて訪問介護員2級課程、1級課程の養成研修を実施しているが、今、本学科でも学生の意識や意欲が問われている。

訪問介護員養成研修3級課程～1級課程の研修内容を下記に掲載する。(表1～表3)

表1 訪問介護員養成研修3級課程

履修時間	受講対象者	履修内容
50時間	勤務時間の少ない非常勤訪問介護員や、福祉公社の協力社員、登録訪問介護員として、訪問介護に従事する人、またはその予定者	2級課程へ進むことを前提とした入門研修課程。訪問介護事業に従事するにあたって必要な知識と技術のうち、基礎的なものを習得する



履修目的	
講義	<ul style="list-style-type: none"> 福祉サービスを提供するにあたっての基本視点を形成する 介護保険制度を中心とした高齢者保健福祉の制度とサービスについて理解する 障害者（児）福祉の制度とサービスの種類、内容、役割を理解する 訪問介護の役割と業務を理解する 訪問介護に従事する際の職業倫理について理解する サービス提供における利用者の人権の尊重について理解する (職業倫理、人権の尊重について重点的項目として取り上げる) 高齢者、障害者（児）の心身の特徴と生活像を把握し、援助の基本的な方向性を理解する 高齢者、障害者（児）の家族に対する理解を深める 介護の目的と機能を理解し、介護の基本原則を把握する 在宅介護の特徴とすすめ方を把握する 高齢者、障害者（児）への生活援助の目的と機能を理解し、その方法を学習する 高齢者、障害者（児）への生活援助に必要な栄養、調理、被服、住居管理等の知識を学習する 高齢者、障害者（児）の在宅生活援助に役に立つ知識を中心に家庭の医学・在宅看護の基礎知識を理解する (介護保険制度の対象となる特定疾病の概要を加える) 高齢者、障害者（児）の在宅生活援助に関連する心理面への援助方法を理解する
演習	<ul style="list-style-type: none"> サービスの利用者の立場に立った理解とサービス提供者としての基本的態度を形成する 食事、排泄、移動・移乗、その他在宅介護を行うにあたっての基礎的な介護技術を修得する 訪問介護における援助方法とその実際について共通の理解を図る
実習	<ul style="list-style-type: none"> 在宅サービス提供現場見学をとおして、その役割・機能を理解する 訪問介護と他サービスとの連携のあり方等、在宅高齢者等への総合的支援のあり方について学習する



カリキュラム		履修時間			
講義	社会福祉に関する知識	サービス提供の基本視点	3	25	50
	訪問介護に関する知識と方法	高齢者保健福祉の制度とサービス	2		
		障害者（児）福祉の制度とサービス	2		
		訪問介護概論	3		
関連領域の基礎知識	サービス利用者の理解	3			
	介護概論	3			
演習	共感的理解と基本的態度の形成 介護技術入門 訪問介護の共通理解	生活援助の方法	4		
		医学の基礎知識	3		
		心理面への援助方法	2		
実習	在宅サービス提供現場見学	4	4		
		10	3	8	

表2 訪問介護員養成研修2級課程

履修時間	受講対象者	履修内容
130時間 (3級課程 修了者は 104時間)	訪問介護に従事する人、または予定者。常勤またはそれに準ずる勤務形態の訪問介護員は2級課程を修了する	訪問介護に従事する人を養成する基本研修。福祉サービスの基本視点の理解、業務内容、利用者知識など、必要な知識や具体的技術を習得する



履修目的	
講義	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の基本的な理念について理解する ・ケアサービスの意義について把握し、チームケアの必要性を理解する ・福祉サービスを提供するにあたっての基本視点を形成する ・介護保険制度を中心とした高齢者保健福祉の制度とサービスについて理解する ・障害者（児）福祉の制度とサービスの種類、内容、役割を理解する ・訪問介護の役割と業務を理解する ・訪問介護に従事する際の職業倫理について理解する ・サービス提供における利用者の人権の尊重について理解する (実際のサービス提供における人権の尊重について重点的項目として取り上げる) ・業務において直面する頻度の高い障害・疾病を医学的に理解する ・実践的視点で利用者の状態像を把握する ・援助の基本的な方向性を把握する ・高齢者、障害者（児）の心理に対する理解を深め、心理的援助のあり方について把握する ・高齢者、障害者（児）等の家族に対する理解を深め、援助の目的と機能を理解する ・介護の目的と機能を理解し、介護の基本原則を把握する ・在宅介護の特徴とすすめ方を把握する ・生活者としての援助対象者の介護事例をとおして、適切な介護方法を学習する ・高齢者、障害者（児）にとっての快適な住宅について理解を深め、住宅の改造に関する知識を学習する ・福祉用具についての理解を深め、主な福祉用具の種類と機能を把握する ・高齢者、障害者（児）への生活援助の目的と機能を理解し、その方法を学習する ・高齢者、障害者（児）への生活援助に必要な栄養、調理、被服の知識を学習する ・ケアマネジメントの視点と方法を理解した上で、訪問介護員として行う相談援助の方法及びケア計画の作成方法を学習する (介護保険制度における居宅介護支援についての内容を深める) ・高齢者、障害者（児）の在宅生活援助に役立つ知識を中心に家庭の医学等の基礎知識を学習する ・高齢者、障害者（児）の在宅看護の基礎知識を学習する ・理学療法・作業療法及び言語療法を中心にリハビリテーションの基礎知識を学習する
演習	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの利用者の立場に立った理解とサービス提供者としての基本的態度を形成する ・食事、排泄、入浴、移動・移乗、その他基本的な介護技術を修得する ・訪問介護員としての訪問介護計画の作成技術を学習する ・業務及び事例の記録の方法と報告の仕方等を学習する ・高齢者、障害者（児）を対象とするレクリエーションについて体験的に理解する
実習	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習の各内容を老人保健・福祉施設において実践することにより介護技術を中心とする援助能力を高める ・訪問介護同行訪問により、業務を体験的に理解するとともに援助能力を高める ・在宅サービスの提供現場の見学をとおして、そのサービス及び機関の役割・機能を把握する ・訪問介護との連携のあり方等、在宅生活者への総合的支援のあり方について学習する



カリキュラム			履修時間		
講義	福祉サービスの基本視点	福祉理念とケアサービスの意義 サービス提供の基本視点	3 3	58	130
	社会福祉の制度とサービス	高齢者保健福祉の制度とサービス 障害者（児）福祉の制度とサービス	3 3		
	訪問介護に関する知識	訪問介護概論 訪問介護員の職業倫理	3 2		
	サービス利用者の理解	障害・疾病の理解 高齢者、障害者（児）の心理 高齢者、障害者（児）等の家族の理解	8 3 3		
	介護に関する知識と方法	介護概論 介護事例検討 住宅・福祉用具に関する知識	3 4 4		
	家事援助に関する知識と方法	生活援助の方法	4		
	相談援助とケア計画の方法	相談援助とケア計画の方法	4		
	関連領域の基礎知識	医学の基礎知識 I 住宅看護の基礎知識 I リハビリテーション医療の基礎知識	3 3 2		
	演習	共感的理解と基本的態度の形成			
基本介護技術			30		
訪問介護計画の作成と記録・報告の技術 レクリエーション体験学習			5 3		
実習	介護実習		16	30	
	訪問介護同行訪問		8		
	在宅サービス提供現場見学		6		

表3 訪問介護員養成研修1級課程

履修時間	受講対象者	履修内容
230時間	2級課程を終了した人で、原則として1年以上訪問介護員として活動した人	より深い知識と技術に加え、訪問介護チーム運営方式推進事業の主任訪問介護員など、基幹的訪問介護員となるための知識と技術を習得する



履修目的	
講義	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度と高齢者福祉・保健・医療に関する制度やサービスについて詳細かつ総合的な理解を深める ・必要なものについて、詳細に障害者（児）福祉の制度やサービスの理解を深める ・訪問介護の業務遂行に必要な社会保障制度等について理解を深める ・最新の高齢者保健福祉の動向を把握する ・最新の障害者（児）福祉の動向を把握する ・必要な介護技術について理解を深め、その展開を図る ・痴呆性高齢者の状態像に対する理解を深め、その介護技術を高める ・障害のある児童や知的障害の状態像に対する理解を深め、その介護技術を高める ・身体障害者の状態像に対する理解を深め、その介護技術を高める ・精神に障害のある利用者の状態像に対する理解を深め、その介護技術を高める ・利用者本人の心身の障害・疾病そのもの以外の原因で生じた困難性を中心とする事例について検討し、適切な援助の視点と方法を学習するとともに臨機応変な援助能力を高める ・在宅ターミナルケアの意義について理解し、その実際を把握する ・ケアマネジメントの目的と機能及び視点と留意点について理解し、その具体的な方法を学習する ・訪問介護員としてのケアマネジメントへの関わり方を学習する ・介護保険制度における居宅介護支援（ケアマネジメント）について学習する ・介護保険制度における訪問介護の運営規準を理解する ・介護保険制度におけるサービス提供責任者の役割を理解し、その業務を把握する ・チームケアや巡回型（24時間対応を含む）の取り組み事例をとおして、効果的運営の方法や運営上の問題点の克服等を学習する ・異なる職種、異なるサービスが協働するチームワークへの理解を深め、他職種・他サービスとの効果的連携・調整の方法や問題点の克服等を学習する ・サービス提供責任者等が行う指導業務の概要を把握し、その役割と必要性について理解する ・業務報告会、事例検討会等の会議の意義と機能について理解を深め、その開催方法等を学習する ・訪問介護員がその業務において直面するレベルを中心とした高齢者、障害者（児）の医学、精神保健、歯科医療・保健の基礎知識について理解を深める ・高齢者、障害者（児）の在宅看護の知識について理解を深める ・高齢者、障害者（児）に対する心理学的援助方法について学習し、その視点を理解する
演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントについて理解を深め、技術を学習する ・指導技術について体験的に理解を深め、技術を学習する ・他者に教えるという作業をとおして、自身の基本介護技術を復習・確認する ・障害への理解を深め、困難事例等への対応技術を学習する ・各種福祉用具の使用方法を体験的に理解する
	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム等の重介護に対応する入所型施設の実習をとおして、対応に困難性を持つ高齢者、障害者（児）への援助能力を高める ・介護を行うデイサービスセンターにおける実習をとおして、在宅生活の高齢者、障害者（児）への援助の視点を広げるとともに援助能力を高める

実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームケアの実習をとおして、チームケアのあり方とサービス提供責任者の役割・業務を体験的に理解し、業務能力を高める ・ 訪問看護同行訪問をとおして、訪問看護サービスの業務内容及び役割と機能を体験的に理解する ・ 在宅介護支援センター職員との同行訪問をとおして、在宅介護支援センターの業務内容及び役割と機能を体験的に理解する ・ 公的関係機関の見学実習をとおして、その役割・機能を理解する ・ 実習の総括として、事例報告書の作成・検討を行い、客観的視点を形成するとともに自身の役割や業務に対する理解を深める ・ 訪問介護との連携のあり方等、在宅生活者への総合的支援のあり方について理解する
----	---



カリキュラム			履修時間		
講義	社会福祉関連の制度とサービス	高齢者福祉の制度とサービス	4	84	230
		高齢者保健・医療の制度とサービス	3		
		障害者（児）福祉の制度とサービス	4		
		社会保障制度	3		
		高齢者保健福祉の動向	3		
		障害者（児）福祉の動向	3		
	介護の方法と技術	介護技術の展開	4		
		痴呆性高齢者の介護の実際	4		
		障害のある児童及び知的障害の介護の実際	4		
		身体障害者の介護の実際	4		
精神に障害のある人々への介護の実際		4			
援助困難事例の検討		4			
チームケアとチームワーク	在宅ターミナルケアの実際	4			
	ケアマネジメントの方法	4			
	介護保険制度とチームケアの在り方	4			
	チームケアの実際	4			
関連領域の基礎知識	指導業務の必要性と方法	4			
	カンファレンスの持ち方と事例検討の方法	4			
	医学の基礎知識Ⅱ	8			
	在宅看護の基礎知識Ⅱ	4			
演習	心理学的援助方法の基礎知識	4			
	ケアマネジメント技術	6	62		
	指導技術と介護技術の向上	30			
	困難事例等対応技術	20			
福祉用具の使用技術	6				
実習	福祉用具の使用技術	6	84		
	痴呆性高齢者等援助困難事例対応実習	24			
	デイサービスセンター実習	12			
	チームケアの実習	16			
	訪問看護同行訪問	8			
	在宅介護支援センター職員との同行訪問	8			
	公的関係機関見学	8			
事例報告の検討	8				

II 研究の目的

訪問介護員の仕事は、日常生活に支障のある高齢者や障害者（児）の生活援助と身体介護，そして相談援助をとおしてその人がその人らしく，人として生きることを継続できるよう「生活と命」を支えることである。

援助者はまごころとやさしさをもっていることが最も大切だが，それだけでは訪問介護員にはなれない。援助の裏には知識，理論，技術などの専門性が必要である。

これから訪問介護員の2級課程の資格を取ろうとしている学生はこのことについてどのように考えているのか，また授業を終えて次のステップ（1級課程）への意欲がどう変わったのかを考察することを目的とする。

III 研究の方法

(1) 対象 平成15年度中国短期大学総合生活学科入学生90名

(2) 期間 <平成15年4月>

授業が開始する前に，訪問介護員資格取得に対する学生の意識について1回目のアンケート調査を実施

<平成15年7月>

すべての授業が修了した時点で，訪問介護員資格取得に対する意識の再確認をアンケート調査により実施した。

(3) 調査方法

訪問介護員2級課程または1級課程の資格取得について，目指す理由，目指さない理由をそれぞれ無記名で記入。

IV 結果と考察

図1 訪問介護員養成研修2級課程資格取得希望者数

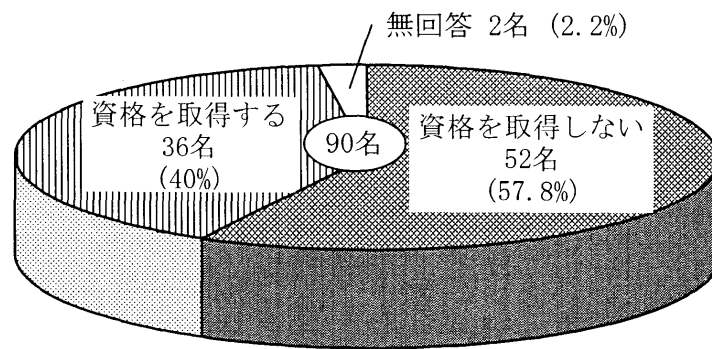


表4 資格を取得しない理由（2級課程）

	理 由	人数(%)
1	他の資格を取得しようと思ったから	20(38.5)
2	自分にはむいていないと思ったから	9(17.3)
3	大変そうなイメージがあったから	8(15.4)
4	興味がない	8(15.4)
5	高校の時に1級・2級を取得しているから	3(5.8)
6	人の世話をすることが苦手だから	2(3.8)
7	他の資格をとおして、福祉に携わりたいと思ったから	1(1.9)
8	社会人になっても取得できるから	1(1.9)
		計52名

表5 資格を取得する理由（2級課程）

	理由	人数(%)
1	人の役に立つ仕事に就きたいと思ったから	9(25.0)
2	高齢社会に突入し、これからの仕事だと思ったから	6(16.7)
3	将来、祖父母や父母の世話をするのに役に立つと思ったから	5(13.9)
4	ボランティア活動をした時の嬉しい体験が忘れられなくて、もっと勉強してみたいと思ったから	3(8.3)
5	すでに祖母が訪問介護員のお世話になっていて、訪問介護員が不足し、必要になっていることを実感したから	2(5.6)
6	老人が好きだから	2(5.6)
7	次の目標のステップにしたいから	2(5.6)
8	就職時に有利だと思ったから	2(5.6)
9	沢山の資格が欲しかったから	2(5.6)
10	高校のとき、准看護師の免許を取得する為に色々なことを学んだので、今度は介護の勉強をしてみたい	1(2.7)
11	授業をとおして自分にとって何かプラスになることがあればいいなあと思ったから	1(2.7)
12	何となく	1(2.7)
		計36名

アンケート結果は次のとおりである。90名の学生の内、52名(57.8%)の学生が訪問介護員2級課程の資格を取得しない。(図1)

その主な理由は(表4)からもわかるように「訪問介護員以外の資格を取得しようと思ったから」という理由が最も多く20名(38.5%)である。この中には取得したかったが他の資格と重なり時間割上取ることができなかったという理由も多く、少し残念な気がする。

また、「自分にはむいていないと思ったから」9名(17.3%),「大変そうなイメージがあるから」8名(15.4%),「興味がない」8名(15.4%)というように深く興

味を示さないまま資格取得を目指さない学生もいる。

逆に資格を取得したいと思っている学生は36名で、全体の40%である。

その主な理由は(表5)から、「人の役に立つ仕事に就きたいと思ったから」9名(25.0%),「高齢社会に突入し、これからの仕事だと思ったから」6名(16.7%),「将来、祖父母や父母の世話をするのに役に立つと思ったから」5名(13.9%)などの理由が多く占め、全体の55.6%と半数以上になっている。現代社会の介護ニーズと結びつけ目的意識をはっきりとさせて資格取得を目指していることが考えられる。

図2 訪問介護員養成研修1級課程資格取得希望者数

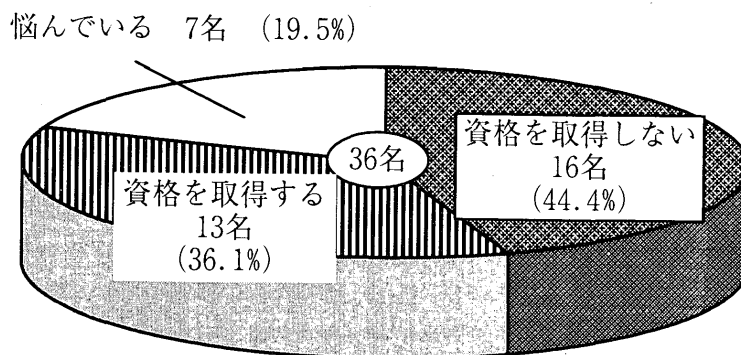


表6 資格を取得しない理由（1級課程）

	理 由	人数(%)
1	精神的にしんどく、自信がない	9(56.3)
2	2級課程のみで十分だと思うので、目指さない	7(43.7)
		計16名

表7 資格を取得する理由（1級課程）

	理 由	人数(%)
1	今よりもっと知識や技術を身につけたい	7(53.8)
2	興味という気持ちから本気で学びたいという気持ちに変化してきた	2(15.4)
3	高齢者の役に立ちたい	1(7.7)
4	指導する立場に是非なりたい	1(7.7)
5	損はないと思うので目指したい	1(7.7)
6	はじめから、1級課程を目指すことしか頭にない	1(7.7)
		計13名

表8 悩んでいる理由（1級課程）

	理 由	人数(%)
1	今は考えるゆとりがなく、本気で悩んでいる	4(57.1)
2	自信がなくてよく分からないし、今は不安がいっぱいで、迷っている	2(28.6)
3	介護員の必要性がよく分かったが、もう少しじっくりと考えてみたい	1(14.3)
		計7名

アンケートの結果は次のとおりである。訪問介護員に関する全ての授業を終えて2級課程を修了する予定の学生36名に対して、1級課程への挑戦意欲について意識の確認を行った。その結果、「精神的にしんどく自信がない」9名(56.3%)、「2級のみで十分だと思うので目指さない」7名(43.7%)というように16名(44.4%)の学生が1級課程に挑戦しないことがわかった。このことは(表2)からも分かるように学生は講義・演習の授業をとおして訪問介護について多くのことを学ぶが、(実習については短大において全ての講義・演習終了後学外において7月から10月に実施される)善意・親切・やさしさといった人間的特性だけでは訪問介護(訪問介護員)の仕事はできないことを知り、授業のプロセスの中で少しずつ自信を消失していったのではないと思われる。

しかし、1級課程へ挑戦する学生は「今よりもっと知識や技術を身につけたい」7名(53.8%)と半数以上の学生が、専門職として必要な専門的知識と援助技法は何かを考察し、授業をとおして職業的アイデンティティ

が深められ1級課程挑戦への自覚を高めていったのではないと思われる。このことは入学時において訪問介護員の資格取得について目的意識をしっかりとっていたという(表5)の結果から読みとれることも興味深い。

また、7名の学生が1級課程挑戦を迷っているという結果も見逃せない。その理由として、自信がなく不安がいっぱいであること、考えるゆとりがないことなど授業(養成研修のカリキュラム)の多くは講義形式で提供されているため生活経験の乏しい多くの学生にとっては観念的理解にとどまり、不安が膨らんでいったのではないと思われる。

V おわりに

中国短期大学総合生活学科に入学し、健康福祉コースの訪問介護員の資格取得を目指す学生の多くは、人の役に立ちたい、高齢者や障害者の力になりたいなど訪問介護に関する仕事に夢や希望を持っている。その可能性を

どう引き出し学生自身に自信をもたせていくかは養成機関の種別や個性が多くの影響を与えているといっても過言ではない。

短期大学で訪問介護員の1級課程・2級課程の資格を出しているのは岡山県内では2校である。養成機関の教育により個人の尊重や人間の社会性、変化の可能性の価値を学生に教えていながら短期大学で訪問介護員の資格を取得することの意味の大切さを身につけてもらいたいと思っている。

またははっきりとした目的意識がない場合、些細なことで無気力感を味わう若い学生にとっては、動機づけの段階において理論偏重教育のみではなく、関心教育も取り入れながら実習先指導者との連携も大切に考え、人が人を支える訪問介護員の仕事のすばらしさを学外実習やボランティアの経験も重ねて伝えていきたいと思っている。

参 考 文 献

- 1) 植田寿之・大西健二共著(2002)
「ホームヘルパー養成研修講師用マニュアル」
株式会社 創元社
- 2) 訪問介護員養成研修ハンドブック編集委員会(2000)
「訪問介護員(ホームヘルパー)養成研修ハンドブック
ーヘルパーテキストガイドラインー」
中央法規出版株式会社
- 3) 是枝祥子(2002)
「ホームヘルパー現任研修テキストシリーズ1 ホームヘルパーのための訪問介護の役割と展開法 ー介護サービスの質の向上のためにー」
株式会社日本医療企画
- 4) 岡本栄一・小田兼三・中嶋充洋・宮崎昭夫編集(1997)
「福祉実習ハンドブック」
中央法規出版株式会社